

## 巻頭言一万象のなかに聖なるものの輝きを求め

佐藤 弘夫 名誉教授

東北大学

International Graduate Program for Japanese Studies (GPJS)

日本学国際共同大学院・前特任教授



過日東北大学で開催された第4回 EAJS (ヨーロッパ日本研究協会) 日本会議は、多数の参加者を集め、盛況のうちに幕を閉じました。この会を運営する主体となったのがGPJSのスタッフです。東北大学でこれだけの規模の国際会議を開催できたことに私は深い感慨を覚えました。

今年は観測史上もっとも暑い夏になりました。地球沸騰化といわれる急激な気候の変動に加え、「人新生」と呼ばれる時代を迎えて、環境汚染も深刻化しています。輝かしい未来に向けてのやむことのない前進が、近代の哲学や歴史学の共通した前提でした。しかし、いま近代の成熟の果てにわたしたちが目しているものは、かつての未来予測とは真逆な光景です。

西欧流の文明化は、人がこの世界を他の無数のものたちと分かち合っているという感覚の喪失と表裏をなす出来事でした。そこでは人間こそが地球における唯一の特権的存在であり、自然も大地も大海も、人が利用して搾取すべき対象にすぎないのです。

日本を含むアジアと呼ばれる地域の伝統文化に色濃く見られるものは、自然からのメッセージに謙虚に耳を傾けようとする姿勢です。その背景には、人間の突出を戒め万物の調和を重視する立場があります。

現代社会は声の届かない時代になってしまったようにみえます。いまわたしたちを取り巻く空間を支配しているのは、連帯と共感を求める心ではなく、拒絶と憎しみの感情です。万象のなかに聖なるものの輝きを求め、声なきものの声を聞き取ろうとしてきたのがアジアの知恵でした。こうした荒蕪とした時代にこそ、私たちはかつて西欧から「多神教」「アニミズム」として貶められてきた日本とアジアの伝統思想に、改めて目を向けてみる必要があるのではないのでしょうか。

国際日本学が果たすべき役割はますます重要になっている。今回の会議に参加し、熱心な発表と議論を拝聴して、改めてそう感じました。

## ニュース

- 🔥 2025年10月 支倉リーグ参加大学38校！  
支倉リーグはますます拡大し、ヨーロッパはもとより、アジア、アフリカ、オセアニア、アメリカの大学が参加しグローバルなネットワークとなっています。今後のイベントに多くの参加校の研究者が結集することを期待します。
- 🔥 2025年3月25日 GPJSプログラム生2名が博士号取得  
GPJSから、艾 焜さんと渡邊陽太さん（ともに文化人類学専攻）の2名の若き博士が誕生しました。
- 🔥 2025年9月 東北大学でEAJS Japan Conferenceを開催  
ヨーロッパ日本研究協会（EAJS）第4回日本会議が東北大学で開催され、400名近い方が参加されました。支倉リーグ参加大学の日本学研究者も多く仙台に集まりました。ぜひ学会ウェブサイトを (<https://gpjs.tohoku.ac.jp/eajs/>) をご覧ください。



## 今後の予定

- 🔥 2025年12月13-14日  
第7回東北国際日本学カンファランス（東北大学）  
今回は第9回支倉シンポジウムのテーマを継承・発展させ、「所有の意味を再考するー日本学からのさらなる知見」というテーマで博物館学、法学、経済学のセッションを企画します。
- 🔥 2026年3月17-19日  
第6回アジア・アフリカ研究博士課程シンポジウム（東北大学）  
次回は当シンポジウムを東北大学で開催する予定です。
- 🔥 2027年3月 予定  
第10回支倉シンポジウム（ボローニャ大学、イタリア）  
東北、ローマ、バンクーバーと受け継がれた支倉シンポジウムは、次回は再びイタリアに回帰し、ボローニャ大学で開催される予定です。



## イベント報告 (2024年 10月～2025年 9月)

- 🌀 2024年 11月 19日 (火) 第23回支倉セミナー  
「クレオールのプロトタイプと複雑性の問題」 (東北大学)  
講師: ウンベルト・アンサルド (香港大学教授)
- 🌀 2024年12月6日 (金)～8日 (日) 第6回東北日本学国際カンファランス  
「場の感覚: 芸術と革新の方法論」 (東北大学 (pp.4-5))
- 🌀 2024年12月12日 (木)・13日 (金) トリノ大学・東北大学 統合日本学センター・日本学国際共同大学院主催: 国際ワークショップ「国際日本学の現在の方向」 (トリノ大学、イタリア、p.3)
- 🌀 2025年2月20日 (木)～22日 (土) 第5回アジア・アフリカ研究国際博士課程シンポジウム (IDSAAS V) (ローマ大学ラ・サピエンツァ、イタリア、p.3)
- 🌀 2025年3月14日 (金) シンポジウム「過去の演劇、異国の演劇」 (グルノーブル・アルプ大学、フランス)
- 🌀 2025年3月18日 (火)・19日 (水) 東北大学国際文化・学際日本学大学院ワークショップ「ザ・ワークショップ2025」 (東北大学)
- 🌀 2025年3月24日 (月) 日本学国際共同大学院シンポジウム  
「戦後における大量生産・大量消費」 (東北大学)  
講師: 満菌勇 (北海道大学准教授)、岩尾俊兵 (慶應義塾大学准教授)
- 🌀 2025年4月18日 (金) 第24回支倉セミナー  
「東北ポーランドの日」 (東北大学)  
講師: Izabela Zawiska (ヤギェウォ大学)、Paweł Dybała (ヤギェウォ大学)、Ewa Kamińska (ヤギェウォ大学)



- 🌀 2025年5月10日 (土) 日本学国際共同大学院シンポジウム「宮城県美術館、都市景観の未来、そして前川國男の遺産—『未完の建築』出版を記念して」 (東北大学)  
講師: 松隈洋 (神奈川大学教授)、大宇根弘司 (大宇根建築設計事務所)、西大立目祥子 (フリーライター)、芳賀満 (東北大学教授/GPJS)、五十嵐太郎 (東北大学教授)、野家啓一 (東北大学名誉教授)、尾崎彰宏 (東北大学総長特命教授)、森一郎 (東北大学教授) (p.3)
- 🌀 2025年6月24日 (火)・25日 (水) 第9回支倉シンポジウム (ブリティッシュコロンビア大学、カナダ)  
「所有/非所有: 身体化、エクソサイズム、所有、喪失」 (pp.6-7)
- 🌀 2025年7月10日 (金) 第6回有識者特別講義  
「研究者という生き方: 殻をやぶる楽しみ」 (東北大学)  
講師: 末光真希先生 (東北大学特任教授)
- 🌀 2025年9月12日 (金)～15日 (月) GPJS夏期研修旅行 (和歌山・奈良方面)
- 🌀 2025年9月20日 (土)・21日 (日) 第4回EAJS (ヨーロッパ日本研究協会) 日本会議 (東北大学)



## イベントハイライト

### 🔗 国際ワークショップ

Current Directions in International Japanese Studies

2024年12月12日（木）・13日（金）トリノ大学、イタリア

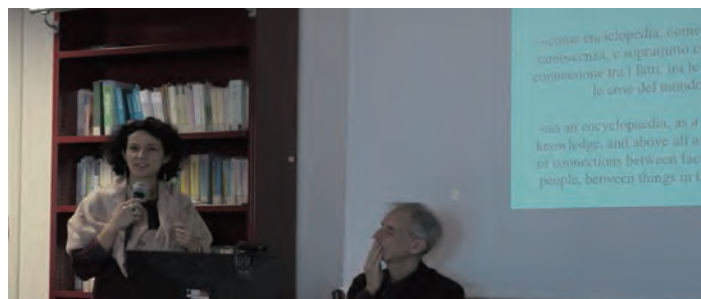
トリノ大学人文学部と東北大学統合日本研究センター（CIJS）の共催によるワークショップが開催されました。ワークショップは、トリノ大学のソニア・ファヴィ先生の開会の挨拶から始まり、東北大学からは、CIJSの教員5名、GPJSの教員4名及びGPJSの院生2名が発表をおこないました。各発表の内容は多岐に亘っていましたが、ワークショップのテーマによく沿い、日本研究の現在の関心が幅広く示されるものとなりました。ワークショップ開催前には、GPJSのメンバーでエクスカーションをおこない、エジプト博物館ならびにトリノ郊外のヴェナリア宮殿などを見学しました。サヴォイア家が統治したサルデーニャ王国の首都トリノに遺る、王国ゆかりの建築と文化財のすばらしさに直に触れられる貴重な機会となりました。（長岡龍作）



### 🔗 第5回アジア・アフリカ学博士課程国際シンポジウム

2025年2月20日（木）-22日（土）ローマ大学ラ・サピエンツァ、イタリア

2023年に行われた第3回のシンポジウムに続き、今回第5回もローマ大学ラ・サピエンツァで同大のFederica Casalin准教授が実行委員長をお務めくださり、ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学、ハイデルベルク大学、ランカスター大学、東北大学から多くの大学院生らが集まり盛会となりました。東北大学GPJSから2人のプログラム生が参加して貴重な経験を積むとともに、2年前には東北大学の大学院生として研究発表をしたElena Fabbrettiさんが今回は教員として母校に帰りセッションの司会を務めました。支倉リーグのネットワークがますます熟してきたことが印象づけられたように思います。次回第6回は2026年3月に東北大学で開催予定で、ヨーロッパからの若いアジア・アフリカ研究者たちが仙台から良い刺激を得る機会となることを期待しています。（木山幸子）



### 🔗 シンポジウム「宮城県美術館、都市景観の未来、そして前川國男の遺産—『未完の建築』出版を記念して」

2025年5月10日（土）東北大学

宮城県の重要な建築として県民に愛される宮城県美術館は、2019年に移転が決められたものの、県民の運動によってその決定が覆り現地存続が叶いました。2020年2月に東北大学GPJSが開催したシンポジウム「公共性と美術館の未来」も一役を担いました。この度のシンポジウムは、森一郎東北大学教授の企画によって、当美術館を設計した前川國男生誕120周年を記念して開催されました。前川建築を辿る『未完の建築 前川國男論・戦後編』を著した松隈洋氏（神奈川大学教授）を迎え、建築家大宇根弘司氏、存続運動を率いた西大立目祥子氏の他、東北大学の教員らがパネリストを務め、近代建築と都市景観を巡る問題を再考しました。学内外から多くの方が参加し、人文社会科学が街を守る一例を示しました。松隈氏による本著は第29回毎日出版文化賞を受賞しました。（木山幸子）



**第6回東北日本学国際カンファランス**

「場の感覚—芸術と革新の方法」  
 2024年12月8日（金）～10日（日）東北大学  
 総合企画：鷲谷洋輔（東北大学准教授/GPJS）

各領域で活躍される研究者を仙台にお迎えし、1日目には4つのセッションが開催され、2日目は学生セッションが行われました。修士と博士の各課程を終えようとするプログラム生が研鑽の成果を発表し、招待講演者を含む教員らからの質問やコメントを受けました。修士課程の中でとくに優れた発表に与えられる「支倉賞」は、陳泓宇さんが受賞しました。

セッション1「芸術の方法を模索する—フィールドの内と外に」

司会：鷲谷洋輔（東北大学准教授/GPJS）  
 登壇：金子由紀子（ブリティッシュコロンビア大学大学院生）  
 Shawn Forde（ブリティッシュコロンビア大学助教）  
 Thorsten Gieser（コブレンツ大学講師）

セッション1では、芸術的手法が人類学をはじめとする研究実践にもたらす可能性と課題が議論されました。鷲谷洋輔の司会のもと、金子由紀子は研究データを「アート」と呼ぶことへのためらいを通して分野の境界を考察し、Shawn Fordeはコミック表現が自己・空間・時間の複雑な関係を描く方法を示しました。Thorsten Gieserは言語化しにくい狩猟経験を感覚人類学の視点から芸術的手法で探究しました。（鷲谷洋輔）

セッション2「歴史の言語が言語の歴史と交差する—日本学におけるイエズス会資料」

企画：オリオン・クラウタウ（東北大学准教授/GPJS）  
 マシュー・ジスク（東北大学准教授/GPJS）  
 司会：星野 靖二（國學院大學教授）  
 登壇：マシュー・ジスク（東北大学准教授/GPJS）  
 ゴフィー・タカハシ（ルール大学ボーフム大学院生）  
 アレクサンドラ・クルヴェロ  
 （リスボン・ノヴァ大学教授）  
 ホムロ・エハルト（マックスプランク研究所研究員）

キリシタン関係資料が日本語史・文化史・思想史の解明にどのような光を投げかけるのかについて、多方面から検討が行われ、16～17世紀日本で作成されたイエズス会文献の学際的価値が強調されました。まずジスク氏は、文法書や辞書等の初期キリシタン文献が日本語史研究にとっていかに重要であることを示しました。イエズス会士たちが音韻体系、口語的用法、方言的特徴を、同時代の和文資料では見られない精度で記録している点を指摘し、これらが近世初期の言語変化を復元するうえで不可欠であると論じました。続いてタカハシ氏は、イエズス会 Compendia のデジタル化の進展を紹介し、写本から検索可能なデジタル・コーパスへの変換が、新たな文献学的・言語学的・歴史学的分析を可能にすることを示しました。クルヴェロ氏は、視覚・物質文化に焦点を移し、宣教師による記録が日本の芸術実践や日常的器物、美的規範をどのように伝え、それが初期ヨーロッパにおける日本像の形成に寄与したかを考察しました。最後にエハルト氏は、イエズス会書簡における「人返し令（hitogaeshirei）」と restitutio の扱いを通じ、法学的・神学的語彙が宣教師たちの日本社会理解を支える重要な解釈枠組みを構成していたことを論じました。（マシュー・ジスク）



### セッション3「情動、感情、国家または社会」

企画：大貫隆史（東北大学教授）  
 木山幸子（東北大学准教授/GPJS）  
 司会：James Tink（東北大学教授）  
 登壇：遠藤不比人（成蹊大学教授）  
 Ryan Johnson（東京大学/メルボルン大学研究員）  
 大貫隆史（東北大学教授）

本セッションでは、感情や情動が国家や社会の想像をいかに形づくるかを文学・美術の観点から考察しました。東北大学文学研究科木山幸子准教授と大貫隆史教授による企画、同James Tink教授の司会のもと、英文学のパネリストらの話題提供により活発な議論が行われました。遠藤不比人教授の発表は、英日近代美術における「不可視」の存在論を通して情動的物質性を論じるものでした。続くRyan Johnson氏は、翻訳と国民アイデンティティを20世紀中葉の文学から検討しました。最後に大貫隆史は、レイモンド・ウィリアムズ最晩年の小説に登場する「紀元前2万3000年」エピソードの生成過程を分析し、「感情の構造」の日本研究への応用可能性を探り、様々な分野の方からの活発な質問が寄せられました。（大貫隆史）

### セッション4「経済とビジネスの歴史における新たな方法論的視座」

企画：結城武延（東北大学准教授/GPJS）  
 酒井一輔（東北大学准教授）  
 司会：張婷婷（東北大学助教）  
 登壇：大和愛采（スタンフォード大学大学院生）  
 井上達樹（明治大学講師）  
 長谷部弘道（日本大学准教授）

本セッションでは、経済史・経営史研究の新しい方法論を検討しました。まず大和氏は八丈島の主要産業が絹から酪農へ転換した環境要因から歴史的背景を考察しました。続いて井上氏は、明治期の石炭煤煙が乳児死亡率に与えた負の影響を計量経済学的手法によって実証しました。さらに長谷部氏は、ソニーとパナソニックが過去の栄光を戦略的に再構成する「レトリカル・ヒストリー」の手法を分析しました。

登壇の3氏は、それぞれ環境・地域・企業経営の視点から、日本の近代化と産業化の過程を多角的に再評価する新たな知見を提示しており、経済学から国際日本学に新たな視点を提供しました。（結城武延）



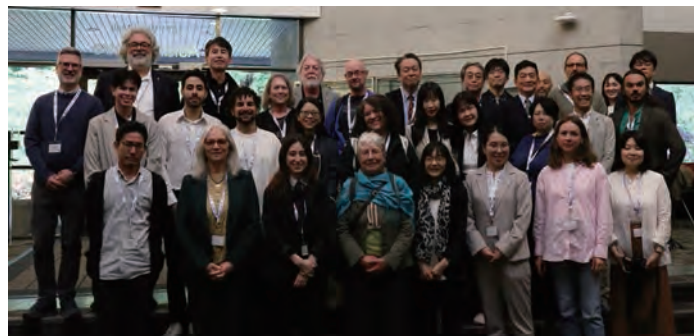
第9回支倉シンポジウム

「所有/非所有：身体化、エクソシズム、所有、喪失」

2025年6月24日（火）・25日（水）プリティッシュュコロンビア大学（カナダ）

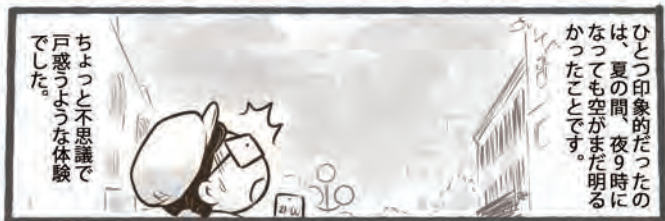
UBCアジア研究学科長のシャリン・オーボー先生による開会の挨拶に続き、前学科長のジョシュア・モストウ先生から、Possession（所有）とDispossession（剥奪）という概念とそのメタファーに焦点を当て、学際的な観点から人文科学（宗教学、文学研究、歴史学を含む）と社会科学（人類学、社会学、環境学を含む）諸分野の研究と知見を発表するという本シンポジウムの開催趣旨が説明されました。東北大学からは、GPJS及びCIJSの関連教員8名と、GPJSの学生3名を含む大学院生5名が発表に臨み、それぞれ充実した発表をおこないました。支倉リーグのローマサピエンツァ大学からも4名の教員の皆さんが参加されました。シンポジウムの前後には、バンクーバー美術館・カピラノ渓谷・UBC人類学博物館などを訪ね、バンクーバーの自然・文化・歴史と現状、先住民の歴史とそれへのカナダの対応について知見を深めました。また、シンポジウム前夜には、オーボー・モストウご夫妻の自宅でのバーベキューパーティに教員が招かれ、地元の食材を味わいながら懇親を深めました。私自身は初めてのカナダ訪問だったこともあり、カナダ西部の歴史とバンクーバーという街の成り立ちにたいへん興味をそそられました。また加伊の研究者との交流を通じて、両国と連携して進めてゆくGPJSの可能性について考えるよい機会を得ることができました。（長岡龍作）

\*今回は、このシンポジウムのためにはじめてバンクーバーを訪れた東北大学院生のウィジャヤ・アンディカさんが、滞在の思い出を以下の素敵な4コマ漫画で表現してくれました。



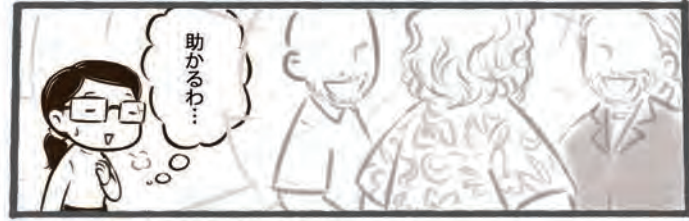
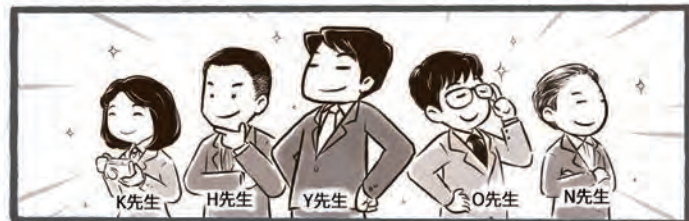
ウィジャヤ・アンディカ

バンクーバーでの思い出



ウィジャヤ・アンディカ

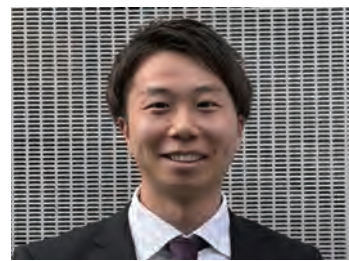
発表の服装について



## GPJS プログラム生インタビュー

## 第4回

渡邊陽太さん (GPJS 第3期生)

東北大学大学院文学研究科文化人類学専攻分野・博士後期課程修了  
現在・東京大学先端科学技術研究センター特任研究員

Q1. 現在の所属先での活動についてご紹介ください。

ー2025年4月より、東京大学先端科学技術研究センターの社会包摂システム分野という研究室で特任研究員として働いています。研究室には8つのプロジェクトがあり、私は「ごきげんな地域づくり(Well-Being Community)人材育成研究」に所属しています。このプロジェクトは、地域的ケアに関わる優れたコーディネーター人材が持つ資質を調査で明らかにし、それを引き出す研修プログラムを社会実装していこうとするものです。私は主に、調査、分析、研修評価を担当しています。

個人の研究では、博士課程までの貧困研究から家族・親族研究に展開し、家族のつながりを重視するとわかってきた東アジア社会の中で、なぜ日本の貧困では社会的孤立が生じるのか、という課題に取り組んでいます。日本の貧困家族の視点から、東アジア社会の新たな側面を考えていくことが目標です。



Q2. 現在のポジションを獲得するにあたって、GPJSでの経験がどのように影響したかお聞かせください。

ー選考の過程では、GPJSのように専門が異なる方々の中で研究を進めてきたことを評価いただきました。先端科学技術研究センターは、分野横断的な研究室が多く、そのほとんどが理系のため、異分野の方と関わるのが基本です。私の研究室でも、障害、社会福祉、心理をはじめとした多様な専門のメンバーと日々、研究しています。

またGPJSの活動を通して、国内外の日本研究者の視点を学んできたことも評価いただきました。現在のプロジェクトは日本を対象にした研究ですが、日本社会を知るためには、海外の研究者から見た「異文化」としての日本という視点が欠かせません。他にも、英語圏での日本研究の動向を学ぶことができたことも評価いただいたのではないかと考えています。

Q3. イギリスのシェフィールド大学へ留学されましたが、なぜこの大学を選んだのでしょうか。ここでの活動はいかがでしたか。

ーイギリスは階級社会であり、貧困研究の始まりの地でもあるため、自分も訪れてみたいと考えていたことがきっかけでした。また、私が在籍したSchool of East Asian Studiesという学科は、日本研究を中心とした東アジア研究が盛んな研究機関だったので、地域研究の視点から学ぶことができるのも魅力でした。

留学中は、Ph. D. コースの演習や日本語の授業に参加し、現地の先生や院生の方々と交流しながら、日本、中国、韓国、アメリカなど、お互いの出身社会についても知見を深め合うことができました。また言語や文化で躓いた経験は、結果的に現地の社会をよく知ることに繋がり、帰国後はイギリスを鏡に日本社会を見ることもできるようになってきたと感じています。

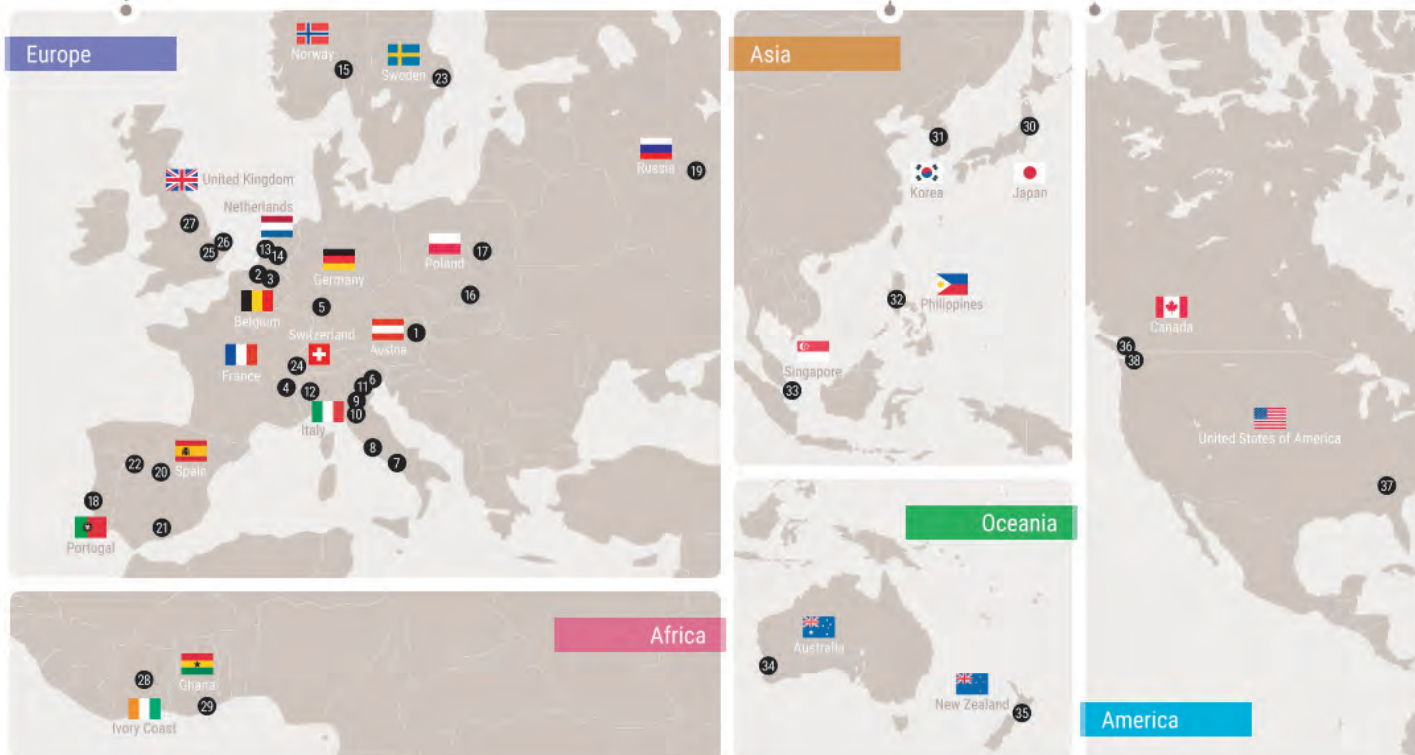
Q4. 国際日本学を背景として、今後の研究者としてのキャリアをどのように築いていこうと考えているか、展望をお聞かせください。

ー今後は、文化人類学、貧困研究、Japanese Studiesという三つの分野の中で、国内外の研究蓄積を接合できるような日本研究者になりたいと考えています。日本は貧困という視点から見ると、「見えない」貧困や社会的孤立など、世界の中でも独特な現象が起こっている社会です。あるいは、他の社会に先んじてこうした課題に直面していると言えることができるかもしれません。地道な調査から貧困状況を明らかにしていくとともに、GPJSで学んだように、日本からグローバルな課題を考えていくという姿勢で研究を進めていきたいです。また貧困に関心のある学生の教育に関わりたいという目標もあるため、今後は教育者としてのキャリアも積み重ねていきたいと考えています。

(ありがとうございました！新たな学際的環境でさらに柔軟な研究力を磨き、研究・教育にご活躍されることを心から祈っています。また東北大学GPJSや支倉リーグの活動にもぜひ加わっていただきたいと思います。)



## 支倉リーグの広がり



## 🌐 ヨーロッパ

1. ウィーン大学 (オーストリア)
2. ヘント大学 (ベルギー)
3. ルーヴァン・カトリック大学 (ベルギー)
4. グルノーブル・アルプ大学 (フランス)
5. ハイデルベルク大学 (ドイツ)
6. ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学 (イタリア)
7. ナポリ東洋大学 (イタリア)
8. ローマ大学ラ・サピエンツァ (イタリア)
9. ボローニャ大学 (イタリア)
10. フィレンツェ大学 (イタリア)
11. パドヴァ大学 (イタリア)
12. トリノ大学 (イタリア)
13. ライデン大学 (オランダ)
14. ユトレヒト大学 (オランダ)
15. オスロ大学 (ノルウェー)
16. ヤゲウォ大学 (ポーランド)
17. ワルシャワ大学 (ポーランド)
18. リスボン新大学 (ポルトガル)
19. モスクワ国立大学 (ロシア)
20. マドリード・アウトノマ大学 (スペイン)
21. グラナダ大学 (スペイン)
22. サラマンカ大学 (スペイン)
23. スtockホルム大学 (スウェーデン)
24. ローザンヌ大学 (スイス)
25. ケンブリッジ大学 (イギリス)

26. イーストアングリア大学 (イギリス)
27. シェフィールド大学 (イギリス)

## 🌐 アフリカ

28. アラサン・ウアタラ大学 (コートジボワール)
29. ガーナ大学 (ガーナ)

## 🌐 アジア

30. 東北大学 (日本)
31. 韓国外国語大学 (韓国)
32. フィリピン大学 (フィリピン)
33. シンガポール国立大学 (シンガポール)

## 🌐 オセアニア

34. カーティン大学 (オーストラリア)
35. マッセー大学 (ニュージーランド)

## 🌐 アメリカ

36. ブリティッシュコロンビア大学 (カナダ)
37. ジョージア大学 (アメリカ合衆国)
38. 西ワシントン大学 (アメリカ合衆国)

さらなる詳細は、ぜひ東北大学日本学  
国際共同大学院 (GPJS) のウェブサ  
イトをご覧ください。

<https://gpjs.tohoku.ac.jp/>



編集後記：2025年の東北大学は、活発に国際・学際交流を展開しています。ぜひGPJSウェブ  
サイトやYoutubeチャンネルをご覧ください。多様な分野の日本学の専門家の研究対象への向  
き合い方に接することで若い学生たちの心は鼓舞され、その研究も深化しつつあるようです。  
EAJS Japanで基調講演を務められた佐藤弘夫GPJS特任教授は、2025年3月にご退任になりました。  
学生たちの中に「聖なるものの輝き」を見出そうと尽くされた佐藤先生の長きにわたるご  
貢献に、謹んで感謝申し上げます。(木山幸子准教授/GPJS広報担当)

東北大学  
日本学国際共同大学院



事務局  
980-8576 仙台市青葉区川内27-1  
e-mail: gpjs@gpr.tohoku.ac.jp